

LEE'S レター 哲樂の中庭 2025 年夏至

6月9日近畿の梅雨入り
カラ梅雨か連日猛暑の「夏至」入り

行った人はまた行きたくなるという『大阪・関西万博 2025』、公式サイトに載っている「ステートメント」は、誰か書いたのか、胸の内を語るような文面に好感。

No.38 (通No.117)
2025 年 6 月 21 日

早くも遅くもなく
計らうタイミング

後にも先にもあの一度きりだった、ということがありませんか。

一度だけ冬山を登ったことがあります。旧知の登山愛好家たちに何度なく誘われていましたが、その気になったのは初めてでした。一九九二年の年末年始、北アルプスの蝶ヶ岳登山に参加。

事前に六甲山で二度予行練習も課せられ、現地へむかう日のリュックの重さは、いったん背負うと余計な動きができないほど。親きようだいは嘔然と見送りました。現地に着いて、雪山でのテント生活も苦にならず、案内役のベテラン一人が途中断念する中、初心者ながら登頂を果たし無事下山。

その四か月後の春、同じメンバーから六甲山のハイキングに誘われました。所どころ険しい箇所も

あるから予行練習できたわけですが、蝶ヶ岳に比べれば何てことないのに、怖くて足がひるんだ。

どういうことだろう、ちょっと考えました。あの時はコワさも不安もなく、行く気になった時から物事が自然に進み、成るようだった。ということは、そういうタイミング、早くても遅くてもだめで、あの時が絶妙の間合いだったのではないかと。

同じようなことが誰にもありませんね。たぶんライフ上には、そういう「絶妙の間」があらわれ、生涯のうちに点在するものなのでしょう、多い少ないはあっても。ここぞという時にパッと。

不意の横槍も退け、「絶妙の間」に入れば、いい経験を超え、大切な学びも計られそうです。

『大阪・関西万博』にちょっとかわる

5月18日(日)に、『小説家と読み解く-なにわ×万博 未来社会のチカラの源』(クレオ大阪中央館主催)で小説家・遠田潤子さんの聞き役を担当しました。昨年2月の『小説家に学ぶ 思考整理のコツ』に続き2度目です。今回は遠田先生にとっても内面的なテーマで尋ねたいこともたくさんありましたが、今回は、うーん、どう話を展開させるか…。

でも救われました。さっそく万博へ二度足を運ばれた遠田先生、「万博に関心の無いわたしでさえ、また行きたくなる、この〈祭り感〉は、ある意味おそろしい。でも明日の活力になる。今日明日があって、未来がある」。会場みなさん、ほとんどが頷いておられた。「人」が未来社会のチカラの源のみなもと、今日をイキイキと、健やかであるのが一番。



なぜかあの時その時

タイミングは『異なるもの味なもの』

絶妙の間、タイミングというのは、生きものと言えるかもしれません。花のいつ咲くかわからない植物があるそうですが、「咲くときに咲く」ように、ある節目で好機が咲く。

シンプルに考えて、その瞬間というのは、コトに対して、本人のチカラと諸般の事情、そして本人以外の世界や環境のさまざまな要素、といっても挙げることはできない諸要素が、うまくハマった時ではないでしょうか。

それも冬山登山ぐらいなら、“おかげでいい経験できた”で終わりますが、もっと大きなコトの場合もあります。“よくぞあの時…”と、あとにな

ってコトの重大さを思い、不思議に感じたりします。個人的には 2012 年にとっておきの「絶妙の間」を授かりました。自分史上、公私ともに最初で最後の？大シゴト、あの時ほどのコトは今のところありません。

ときどき思い出しては、ゾクツとします。9ヶ月におよんだ一大プロジェクト、突発的なこともあった、でも、それさえも大シゴトを盛り上げる装置となり、成るように為った。タイミング、さまざまです。

何か特別なコトのタイミングが生まれる。それにはまず、本人の「その気」、あるいは、“これって、…?”というような、目の前に起こっていることへの着目、そういったものが無い

と始まらない。後者の“これって?”の場合は、思考を先へすすめて、“これって〇〇〇ではないか”と、ある事を想定することになります、たぶん。

「その気」や「想定」に意味を感じ、外の世界へ動きだした時、にわかに「絶妙の間」が生まれ、仮に〈横やり〉が遭ってもスルーして、その「間」に入っていける。万が一にも途中で断念したら、「絶妙の間」は置いてきぼり、自然消滅して、本人にとってはせっかくのタイミングを逃すことになる。

『縁は異なるもの味なもの』ならぬ、「タイミングは異なるもの味なもの」と感じます。そう感じることで自体に意味があると思います。



時に立ちどまり〈先を読む〉

「女性チャレンジ応援拠点」の『[拠点ゼミ〈車座オープンソール〉](#)時に立ちどまり先を読む 2025 年夏』が予定されています。

今年も半分おわり、秋の実りにそなえる夏。一年の「計」の進捗状況をシビアに判断し、抱える「ワーク」類のバランス、「ライフ」とのバランスをはかって、順調な軌道を保ちましょうという会にしたいと思います。

初めての方も、他の参加者のお話がためになります。どうぞふるってご参加ください。

●日時：7月12日（土）10時

●場所：[クレオ大阪中央館](#)

いまごろ「小林秀雄」に接近

名前はよく知っていても知らない人はたくさんいますが、たまたま知人から教えてもらった河合隼雄先生の「最終講義」の動画。今さらながら、“勉強になるなあ…”。

せっかくだから他の講演音声動画を2、3本視聴して、味をしめ、先日再読した『数学する人生』の「岡潔」と「小林秀雄」の対談はないかと検索。残念ながら無し、でも「小林秀雄」は何本かありました。

聴き始めて、重ねて聴きたくなる。聴覚がどんどん澄んできて、頭が冴えてくる感じです。先の「タイミング」ではありませんが、今だからそう感じられるのでしょうか。

風貌からの印象とはちがって、声がけっこう甲高いのは意外でしたが、「小林秀雄」に接近することになって、よかった。

哲人、超人たちの知の世界に誰でもアクセスできるとは、いい時代です。